

近所トマソン隊みたいな



by うさお



寄る年波には勝てんね！
字が読めないよ！

「トマソン隊」を始めて、数年が経ちましたけど、この間に取材車両「トマソン号」が変わりました。

初代トマソン号は、本格クロカン車(クロスカントリー)であるパジェロ・ロングでした。インテークとエグゾースト(吸気と排気ね!)のチューンを施し、燃料増量チューンとスポーツ・サスに換装し、ハイワット・バルブのライト(照明)・チューンと、そのスペックは、結構、気に入っていました。

ディーゼル・ターボ車でした。変な改造をしているため、ターボが効き出すとアクセル途中からガンッと尻を蹴られるような、いわゆるドッカン・ターボでした。はて、こうやって書いてみると、少し吃驚ですね。まるでパソコン誌のようなカタカナふんだんの訳の判らない表現です。メカ・フェチですね。

どうもメカ・メカ大好きのうさおは、この手のテクニカル・タームっぽいカタカナに弱いので、要は私の前や後に走っている車は、大変迷惑だったってことです。

ですから、友達とアウトドアに出かけるときは、いつも最後尾に着けていました。何しろ坂道を登るときは、いきなりエグゾースト・パイプから黒煙がふわっと・・・車1台分は煙幕の中に収めていましたから・・・。

問題は夜です。ヘッドライトは通常55Wのバルブを用いますが、135Wのバルブを用いていたので、後ろから照らされると眩しいの、眩しいのって。それに4駆の車のヘッドライトは通常の車より高いため、もろ先行車のバックミラーの中に入ります。そんなお気に入りの車も、東京都と神奈川県、埼玉県、大阪府などで施行されている通称「ディーゼル車規制」のおかげで、平成16年の12月までしか、乗ることが出来なくなりました。



初代トマソン号



泣く泣くうさおは、ガソリン車に変えることにしました。それでも吝嗇なうさおは、燃費の点も考えて、2000cc のパジェロ・イオを買いました。前のパジェロ・ロングとは、車の長さで 70cm も短くなりました。この車も、インテークとエグゾーストにチューンを施してありますし、ライト・チューンもしました。サス・チューンはしませんでしたので、コーナーは怖かったけれども可愛い車で気に入りました。

でも、うさおはここ最近、車についていません。「トマソン 2号」は、僅か 1 年余りの命でした。家の近所のビデオ店に DVD を返している、ほんの数十秒の間の出来事です。店の中で「ど～ん、ど～ん」と 2 回、あの交通事故特有の音が聞こえてきました。(安田大サーカスじゃないよ！ど～ん、ど～ん、ど～ん、ぴか、ぴっか!) 嫌な感じがしました。うさおの車じゃないよな!

まさしくそれはうさおの車でした! スカイライン GTR がうさおの車の後部にあたり、ブロック塀に突っ込み、ひしゃげていました。速度制限 40km/h の道路を 80km/h で走行し、自爆したのです。うさおの車は 180 度、反対を向いていました。ああ、ひどい!!

これも三菱の車を買った所為かと、謂れの無い文句をつけながら、今度は日産のエクストレルを買いました。怖くて、給排気のチューンを行うことが出来ません。すると、なにかまた悪いことが起こりそうな気がするとです。

イオよりはサスが硬いことと、エンジンがよく噴けるのが心地よい「トマソン 3号」です。この車は最初から、ヘッドランプは



キセノン(H.I.D.)です。大変明るく、山道など明かりの無い道でも高速に走ることが出来ます。(こら、こら、ブラインド・コーナーを高速で走っちゃだめだっばっ!)

でもです。家の前で工業用水道の工事が数ヶ月の期間行われることになりました。ほんの 4 日間、出張に行っている間にボディーにうっすらと黄色い粉が付いていました。ロードカッターで切った路面とカッターの粉末(切子)が付いたのでしょう。まだ納車されて 1 ヶ月です。

さて、今回は「ご近所トマソン隊みたいな」である。トマソン隊のねたが無いので誤魔化すことにしたのだ。

え～、上句付けというのが江戸時代には流行ったそうですね。「嬉しくもあり、悲しくもあり」とお題が出されると、この謎解きの上の句を付けるというもので、これは柄井川柳が得

2003年の夏でした。正確には8月27日ですが、暑さなんかぜんぜん感じませんでした。

行きこそタクシーに乗りましたが、帰りは富士急壬生駅まで歩いて帰りました。多分汗びっしょりだったと思いますが、元気でした。

現地にたどり着くと、そこには立派なりニア見学センターがあり、見学者がごった返していました。

まるで縁日のような感じでした。その日はTV局も来ており、ウド鈴木



と天野も来ていました。綺麗なお姉さんがいましたが、タレントさんだったのかな？

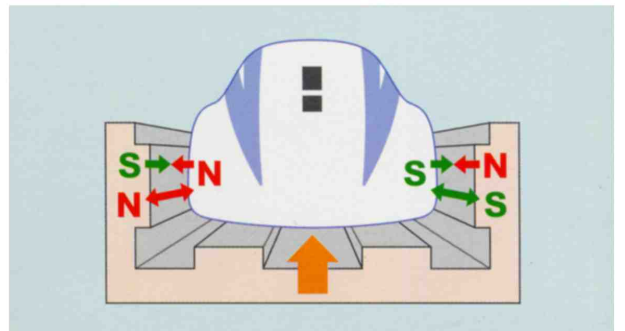
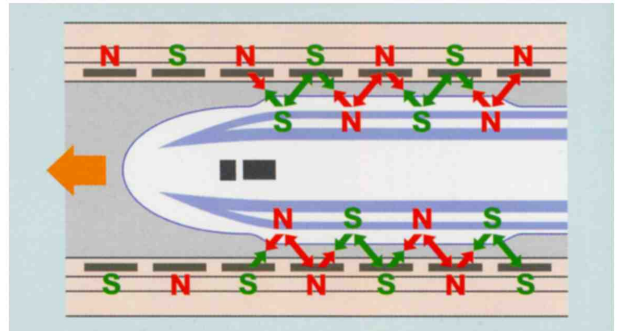
この試乗会は、うさおのように特別なコネ（ふん、ふん！鼻息が荒い！）で行く以外に、インターネットで申し込むと、抽選で当たります。もちろん無料です。JR東海と山梨県がこの見学センターを運営しています。





このリニア新幹線は、将来「中央新幹線」となり、この試験線も本線に組み込まれます。新幹線鉄道網を左図に示します。

少しリニアモーターカーについて、説明しておきましょう。そんなに知っているわけじゃありませんが、超伝導技術で強力な磁場を左右の壁のリアクション・プレートに起こし、その力で車体の浮上と、推力を得ます。



実際、このままでは空に飛んでしまうので、空力上ダウン・フォースが得られるよう、カモノハシの嘴型をしています。今の東海道新幹線



の700系か、東北新幹線のE2系の先頭車両のようです。

で、この写真は実はまだ開発途中の段階のもので、実際に試乗したのものとは違います。





実際の形はこのようなものです。走行中のものは、もう、新幹線、新幹線していました。この時は最高速度が 550km/h ほどで、今の愛知万博のものの方がこの時より速いようです。駅に止まっているときには、床下にタイヤがあって走行しだして、200km/h を越えると飛行機のように足が車体に格納されます。その瞬間、今までゴトゴトいていた車内騒音が、まるでジェット機が音速を超えた時のように、シーンとなります。



この辺はちょっと感動なのですが、ただ今の試験線がほとんどトンネルの中を通っているので、本当はまるでディズニーランドのスター・ツアーズのようなフライト・シミュレーターで、急激な加速を感じているが、まったくの偽の体験をさせられているのではと思っちゃいます。(疑り深いですね)

なんてたって、トンネル内の外の景色は、



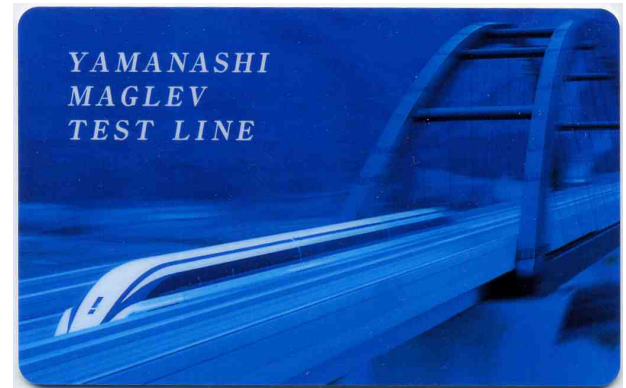
車内にあるモニターに車外が映されていて、それを見ながらああ速いなあって感じるだけなんです。テロップで 540km/h、545km/h、550km/h って見ると、すげえ速いジャンって思っちゃいます。

試乗はこの 42km 間を 2 往復して終わります。あっけないなあ！

乗り終わった後で、裏山に上ってみました。上から走っている車両が見えます。ジェット機のような爆音をたてて、リニアモーターカーが突っ走っていました。



で、乗りましたと言う証明が、この乗車証明書と座席券です。



④便 2号車-21

益田 勲 様

座席番号
《Seat Number》 8D

乗車証明書 Maglev Boarding Certificate

山梨リニア実験線にて超電導リニアモーターカーMLX01に乗車したことを証明いたします。

2003.8.27

益田 勲 様

超電導磁気浮上式鉄道
山梨実験センター 所長 白国紀行